

受賞おめでとうございます

大田区自治会・町会正副永年在職感謝状
南雲 博康 酒井 和夫 浅沼 忠雄

地域力推進委員会委員退任感謝状
南雲 博康 田中千恵子 太田 義久

東京都赤十字奉仕団功労者表彰
◇銀色有功章（15年以上）
鈴木 英明 岩澤 進吾 平林 宏一
福原 美子 大塚由紀子 山崎 晴久

◇金梓支部長感謝状（10年以上）
鈴木 尚子 吉田 和生 三沢清太郎

◇銀梓支部長感謝状（5年以上）
宏林 静憲 谷村 啓

東京都青少年健全育成功労者表彰
溝口美枝子

（敬称略）

入新井第二小学校 ガーデニングクラブ

中央2丁目から大森西1丁目へ行く所に、電車のガード「東海道線(28) 作尻ガード」があります。その前に小さな花壇があります。以前そこは花壇と気づかれないような場所でした。学校が管理する所ですが、校外のため管理しきれず、虫がわき、雑草が生い茂り、自転車や電子レンジまで捨てられ



ていました。このままでは教育にも良くないということで、学校、スクールサポート、hanatomoの三者でガーデニングクラブを発足させ、活動は月一回の植え替えや整備、また、毎月「GARDENING新聞」を発行し、「地域の自慢の花壇」を目指しています。

【hanatomo問合せ先: hanatomo.makoo@gmail.com】

祝!80歳のゲートボール公認審判員



大塚恵美子さん nderいます。参加者募集中とのことです。

編集後記

今年は異常気象が続く関西に大災害をもたらした台風が過ぎ去ったかと思えば北海道では大地震が起きてしまいました。幸い我地域には目立った被害はなかったと伺っておりますが多くの大災害はある日突然やって来ます。

今号は防災に対する特集となっております。相次ぐ災害にどう備えてゆけば良いので

しょうか。地域の防災訓練等に家族で参加し非常持出し用品の備えや、避難場所の確認をしておく必要をつくづく感じました。

最後に今号より編集委員として参加させていただき事になりました。余り文字に縁のない私なので不安ですが頑張らせていただきますので宜しくお願い致します。（福田編集委員）

桃雲寺再興記念碑と富士講碑移設

（山王三・四丁目自治会）
8月2日(木)、今年も根岸地蔵の地蔵盆がにぎやかに執り行われました。合わせて新井宿薬師堂の建て替えに伴い保管していた『桃雲寺再興記念碑』と『富士講碑』が根岸地蔵敷地内に移設されました。一説には桃雲寺は木原山の麓にあったとも言われているので元あった場所に近い場所に碑が戻された、といってもいいかもしれません。お近くお通りの際には在りし日に思いを馳せご高覧頂けますと幸いです。



10月21日(日) 新井宿六丁目町会の防災訓練

毎年同じ行程でくりかえし練習を重ねています。（煙り体験・消火器・AED操作・三角巾）今年も車輪付担架訓練もしました。皆一年に1回の訓練に真剣に取り組んでいました。入四の子どもたちもダンボール簡易トイレ作りに挑戦し皆さんに作り方を説明していました。

9月9日(日) 新井宿七丁目町会の防災訓練



三角巾

車輪付担架



AED操作



ポンプ操作

発行	地域力推進新井宿地区委員会
編集	「わがまち新井宿」編集委員会
中央四丁目町会	編集委員長 若生一順
山王三丁目自治会	副編集委員長 荒木秀樹
山王三丁目町会	副編集委員長 吉川信一
山王三・四丁目自治会	編集委員 三沢清太郎
中央一丁目町会	編集委員 形見俊郎
中央一丁目町会	編集委員 関口直人
新井宿五丁目町会	編集委員 加藤弘子
新井宿六丁目町会	編集委員 雫本まり子
新井宿六丁目町会	編集委員 松原美枝子
新井宿七丁目町会	編集委員 福田スミ
……共同編集……	
監修	新井宿自治会連合会
事務局	大田区新井宿特別出張所
	大田区中央1-21-6 ☎3776-5391
	http://www.city.ota.tokyo.jp/omori/index.html

わがまち Arai juku

新井宿

「わがまち」と音楽の国
山王小6年
やまださえ
山田紗英さんの作品
(水彩画)

緊急・防災特集
新たなステージに入った自然災害に備える

今年、日本各地を襲ったような想定外の大規模な自然災害に対しての備えについて、新井宿自治会連合会長と新井宿特別出張所長からお言葉を頂きました。また、先ごろ発生した「平成30年7月豪雨」の被災地支援に派遣された出張所職員の被災地レポートもあわせて掲載します。

新井宿自治会連合会長
鈴木 英明

地震を含む自然現象は、いかなる時においてもいかなる場所においても防ぐことはできません。然しながら災害の多くは備えなかったことによる人災です。備えはその地域や家庭の状況で其々であり備え方も異なります。また必ず自宅で被災するとも限りません。一人一人が防災への意識をもって日常を安心して暮らしましょう。

防災の基本は一人一人の自助です。そして次に家族やご近所同士の普段からのお付き合いです。大災害に消防署や警察はすぐには機能できないため自治会や町会が共助という立場でこれに対応する事になります。各自治会町会の市民消防隊はそのために普段から訓練をしています。新井宿地域でもそれぞれの自治会町会がお互いに連携協力して大きな輪で体制を整えております。決して他人事とせず、普段からこうした町の事業に多くの皆さんのご参加を期待しております。いつ来るかわからないということは今直ぐかもしれません。

新井宿特別出張所長
若林 弘

今年、日本各地で豪雨や地震による大きな災害が続いています。防災には自助・共助・公助がありますが、特別出張所は主に地域の皆様による共助の支援を行っています。共助の礎は、日頃からの近隣の方との顔の見える関係づくりです。各自治会・町会では、地域の皆様がふれあい、一緒に楽しめるお祭り・盆踊りなどのイベントや、防災訓練を実施しています。自治会・町会掲示板等でポスターを見かけたら、ぜひご参加ください。

災害時は、家屋が被災して居住が困難になった方のために自治会・町会の方が中心となり、小・中学校を学校防災活動拠点として運営します。年に数回、自治会・町会の方が出張所職員や学校の方と会議を重ね、研修や訓練を実施して、速やかな避難所の開設や被災者の受け入れ態勢の整備に取り組んでいます。また、地域における被害情報を収集伝達し、救助・救護活動を展開する拠点づくりに努めています。

新井宿特別出張所職員の「平成30年7月豪雨」被災地レポート

私は、7月21日～26日までの6日間、職場の方の協力もあり、「平成30年7月豪雨」に伴う災害派遣で、岡山県倉敷市に行ってきました。

初日は、大きな被害を受けた倉敷市真備町を見て回りました。幹線道路沿いに災害ゴミが積み重ねられ、自衛隊が重機で撤去作業を進めており、町中を、ダンプカーや災害車が頻りに走っていました。東京都派遣チームは期間中、リ災証明書の被害判定のため、住家被害認定調査を担当しました。また、調査時に、住家で片づけを行っている被災者の方もいて、屋外で調査している私たちの体調を気遣ってくださり「わざわざ東京から、ありがとうございます」という言葉もかけてくださいました。

被災した人の中には、近所で声を掛け合って、避難された方もいて、日々の関係作りの大切さも感じました。ただ、まずは自分自身の身を守ることが重要で、それぞれの方の安全があって、初めて互いに協力出来るのです。私も出張所の職員として、地域での関係作りに、携わっていきたくと思います。

新井宿特別出張所 福本 祐一



新井宿地区8自治会・町会の防災対策

各自治会・町会から防災対策の現状と課題や新たな取り組み等について記事を頂きました。あわせて、消防団や市民消火隊についても簡単にご紹介します。また、9月に「おおた区報」の1面にも掲載された家庭内備蓄についてもご紹介します。

山王三丁目東自治会

私たちの自治会は、商店街が多く、単位としては小さいですが、初期消火訓練には高齢者にもご参加いただくなど、真剣に取り組んでいます。

いざと言う時に備えて、区設の消火器や消火栓の設置場所も自治会として地図上に明記しています。

商店街の後継者問題もなかなか難しい問題ですが、若い世代にこれまでの活動を引き継いでいきたいと考えています。また、新規参入の商店の方にも自治会にご参加いただけるよう、継続的に活動していきます。

12月16日(日)には、当自治会が災害時に避難所として利用する入新井第一小学校を会場に入新井地区の近隣3町会(入新井四丁目町会、大森北一丁目町会、入新井六丁目町会)と合同で、学校防災活動拠点訓練を実施します。

この地区の指定避難所: 入新井第一小学校

山王三・四丁目自治会

自治会の防災は、楽しく備えることと現実的に備えることとしています。夏のこどもまつりと冬のトワイライトで地域の絆(顔の見える触れ合い)と自治会の組織力向上を目指し楽しく訓練をしています。また班長会や総会の機会に加えて、防災ミーティングを開催して会員の防災意識の普及を行っています。

市民消火隊は、区域にある防火水槽に其々ポンプを配備して、想定訓練や一人操法など現実的な訓練を行っています。隊員不足は同様に課題であり若い方たちの募集に努めていますので是非この機会に皆さんの参加をお願いします。



この地区の指定避難所: 馬込東中学校

新井宿五丁目町会

「新井宿五丁目ミニポンプ隊、これより基本操作を開始します。」女性隊員の号令の下、隊員たちが機敏に動き出します。我々、市民消火隊員は、現在、2名の女性隊員を含め8名。毎月、第3土曜日に入二小の校庭をお借りして放水訓練を実施しています。消火隊は消火訓練のみならず、殆どの町会行事に参加します。人目を引くオレンジ色の制服がトレードマークです。派手さだけでなく場を引き締める効果もありそうです。新井宿五丁目消火隊には、町会で活躍する高齢隊員、入二小のライフクラブ(親父の会)を担う隊員もいます。入二フェスタ後の花火大会では、毎年、400名近い子供たちが消火隊の放水を浴びに来ます。学校に泊まる防災体験でも同様、盛り上がります。こんな体験を通して子供たちが将来、地域の防火・防災に関心を持ってくれることを祈りつつ、これからもこんな活動を続けていきたいと思っています。

この地区の指定避難所: 入新井第二小学校

新井宿七丁目町会

平成30年9月9日(日)、大森消防署山谷出張所、第4分団消防団、新井宿特別出張所の協力を得て、大森地域庁舎にて防災・防火訓練を実施致しました。当日は100余名を超える参加を頂きました。タヌキ、クマ、リス、ウサギチームに分かれ、①消火器を使った初期消火、②車輪付担架組立訓練、③AED訓練、④スタンドパイプの放水訓練、⑤ゴミ袋と新聞紙を使ったクッション、ツナ缶を使ったランプ等々の訓練を行いました。市民消火隊によるポンプ操法を披露。アルファ化米等の配布訓練。皆の会話「家で水とか食料の備蓄は?」「わかつちやるけど、なかなかねえ?」日常に溶け込ませるローリングストックの話をしました。非常食を少し食べて、少しずつ補充していく、支援が届くまでの間自分と家族の命を守る備えが大事。全員でいざというときは、自助、共助、公助はもちろん、一番大事なのは近所であるという結論でした。【4面に写真あり】

消防団とは?

消防団は消防署と同じ消防機関です。通常では、仕事を持っている人たちが災害時には消防団員となり消火活動を行います。団員は特別職の公務員です。入団資格は18歳以上の健康な方、男女は問いません。新井宿地区は、主に山王地区を担当する第8分団と中央地区を担当する第4分団に分かれます。



市民消火隊とは?

地域消火・防災の最小単位です。各町会で組織されています。完全ボランティアで災害時は町会の人たちの安全の確保や各種ポンプを使った消火活動を行います。最近では市民消火隊の担い手が減り、どの町会も困っています。



水や食料、最低でもこれだけは備えておきましょう

水
1人1日1ℓの飲料水が必要です。調理等に使用する水を含めると、3ℓ程度あれば安心です。



米
2kgの米は、1食=0.5合(75g)として27食分になります。



缶詰・レトルト食品
数日間食べても飽きがないよう栄養のバランスも考えて備えておきましょう。



その他
アルファ化米、乾燥麺、カップ麺やチョコレートなどカロリーの高い菓子、梅干や漬物、味噌やしょう油などの調味料 など



山王三丁目町会

わたくしたちの市民消火隊は平均年齢73歳ぐらいで、全員男性です。やはり40~50代の年齢の人が入ってくれることを願っています。

こんなことがありました。数年前、風雨の強い夜、「近所で水が出た」と連絡がありました。わたくしたち三丁目市民消火隊はちょうど会合で町会事務所にいました。すぐに出動、



文化財保護週間での善慶寺消火訓練

ポンプを使って半地下になっていた住宅の排水を行いました。消防署は沢田通りの冠水の為、来るのが遅くなりました。この場所は道を隔てた隣の町会でしたが、災害時は町会相互に助け合わなければ、実感しました。

中央一丁目町会

中央一丁目町会は、毎年10月に町会全体で防災訓練を実施しています。会場は「春日公園」。毎年200名以上の方が参加してくれています。消火器訓練、担架搬送訓練、応急救護訓練、炊出しなどに加え、年度によっては座学も行います。数年前に、アメリカ式防災実務経験者の話で、例えば、逃げる際はハンカチで口を覆い、姿勢を低くして避難すること。ドアノブには素手で触らないこと。声ではなく棒などで叩いて救助を求めること、救助する際は5人で行いその内の2人は周囲の安全確認を行うこと等々、実践を学びました。市民消火隊は毎月訓練を行い、複数名が消防団にも参加し活躍しています。



この地区の指定避難所: 大森第三中学校

中央四丁目町会

以前から大森三中を活動拠点として町会独自の防災訓練を行うとともに、近隣の中央一丁目町会や山王三丁目町会と合同で、学校防災活動拠点としての訓練も実施しています。近年、日本各地で発生している想定外の大規模な自然災害に備える為、新たな取り組みも始めました。優先順位を考えた時、食糧とともに、「水」、「トイレ」、「電気」の確保が重要です。特にトイレについては、従来型の本格的な仮設トイレとは別に、新たに「段ボールトイレ」や「簡易型の仮設トイレ」を用意して防災訓練の時に紹介し、組立・展示も行い、その有用性をアピールしました。また、防災訓練とは別に、消防団の指導のもと、市民消火隊が毎月、大森三中で訓練を行い、防災力のアップに努めています。



簡易型の仮設トイレ

新井宿六丁目町会

当町会は、地震や自然災害時の助け合いは、日ごろからの隣近所の挨拶から始まり顔を見える活動が大切さを伝えています。また、家族の安全が確認できたら高齢者・障害のある方・乳幼児等の避難に協力を優先努めます。この地区は、木密住宅地域で火災の初期消火が重要となり消火器の配置図と市民消火隊・婦人消火隊の訓練強化に努めます。

9月には東京防災セミナーで避難所より自宅での避難の大切さを学びました。それには、電気・水道等の復活までの3日~7日間の備蓄が必要と確認できた。今後、地震災害に備えて新井宿特別出張所や大森消防署並びに近隣町会との協力を進めます。



この地区の指定避難所: 入新井第四小学校

地域の防火と防災は消防署・消防団と市民消火隊が担います!